

有なる〔もの〕は、「体」をもって自然にあり、この「体」は、自らの在属性として変換「崩壊=蘇生」し、常に、新たなる自然在を獲得することで有体としてある。(【人】在もこの有体にある)しかし、今、この〔もの〕の自然在が、人間界のもとで人工化され、崩壊(絶滅)・危機の現場に立たされている現在(「死の現代」と言語化する)、わが身体は、自らの【人】生命「体」としての自然在を獲得、蘇生することが求められている。 西村 誠英

— 2009年の春 「塵在の気韻展」にて —

レクチャー 企画 . . . . . 自由参加 無料

テーマ : 現代の「ARTする」身体解明

2009年1月17日(土) 午後3時—午後7時

(途中入可ですが、3時までの入場をお願いします)

会場 ギャラリー・サージ

〒101-0032 東京都千代田区岩本町2-7-13 渡辺ビル1F

Tel 03-3861-2581



話し手 西村誠英 (現代美術家・「塵在の気韻展」出品者)

\*\*\*\*\*

レクチャーの内容 — 形象(=妄想)ARTが崩壊する現代の「ARTする」観身体解明

形象ARTの「ARTする」身体は、受感身体による知感化構造に閉じられて来た。この構造をもって、「死の現代」での「ARTする」観身体を開明することは不可能である。それは、現代のARTが表現的媒介なる造形思惟にないことを意味する。わたしは、このART思惟の萌芽をアンフォルメルARTに観た。

形象は「体」をもつての形象—— 体」を喪失した形象知感は、人工物としての形象「態」を造り出し、人間界の妄想ポエム幻想・「絵空事」の知感界を生産してきた。この知感化身体は、有なる「体」との出会い身体になく、「体」の形象を媒介する形象の「態」様として読み取る身体、人間界の「愛知する」読み身体にある。しかし、「形象は有なる「体」をもって形象にあ

る」と直智した瞬間、「おのれ」身体は、形象を所した有なる「体」との<1と1>とに閉ざされた出会い現場に立つことになり、「観化せる身体」として、「おまえ」他者・「体」の「在」ことを智観化する。この観蘇生身体は、【人】在の自然なる「在」属性にある。——この密なる【人】在の観蘇生身体が、形象ARTの「ARTする」身体のもとでどのように隠蔽され、抹殺されて来たかを解明することは、この「死の現代」に於けるARTの創造精神を開明する基点となる。

アンフォルメルARTの出現は、まさに、媒介形象としての造形思惟が崩壊する始まりであり、【人】在の未明なる「ARTする」身体の胎動としてこれを捉えることは出来ないか。

「ARTする」行為身体が〔もの〕の「体」にかかわることで、ART跡体は、新たなる自らの有体としての自然「在」の気韻を顕現する。また、行為するなかでわが「ARTする」身体は、人間界から離脱した有なる地上に落ち、跡体のこの気韻に立ち会うことが可能になり、「おまえ」ART跡体の自然「在」の出現を智観化する。<わたしは、ART行為の現場で、現代廃物に現代の自然「在」・野生「大地の刺」を観た> この密なる「ARTする」観身体蘇生現場は、自らの人間なる個人が崩壊し、【人】生命・在が誕生せる現場である。

ここに「ARTの創造は、【人】在自らの「観の創造」にある」

ここで、初めて、「ARTする」身体は、人間界から離脱した【人】在の変換「崩壊=蘇生」せる自然なる「在」属性にあることとして思惟化せることに成る。

このレクチャーで、ARTの行為現場からの私論として、有体の崩壊・危機のこの「死の現代」に於ける未明なる現代の「ARTする」身体の観蘇生の課題とその解明を提示したい。

- 現代の「在」智観(約1時間30分)——①現代の知感構造の課題 ②有「在」体の絶滅・危機の現代 ③有「在」体の変換構造 ④<1と1>との出会い身体の観蘇生構造 <約10分間休憩>
- 「ARTする」身体解明(約2時間)——⑤「ARTする」行為身体 ⑥現在の形象ARTの妄想性 ⑦ART跡体の自然「在」の顕現性 ⑧「ARTする」身体の自覚精神の創造 追加(時間が取れたら)画ART思惟の現場から ⑨話し合い <終了>

あなたの御来場をお待ちしています。



わたしは、画行為の現場に居、ここでの思惟作業を手作り冊子にして提示してきた。今回のレクチャーは、2008年の自らの著『現代の「ARTする」身体解明』(A4サイズ、32ページ)冊子の解説となります。この冊子を求めたい方は、「塵在の気韻展」の会期中(2009年1月10日(土)~21日(水)、日曜休廊)、会場で、500円で得られます。また、前もって入手御希望の方は、下記の住所まで80円郵便切手8枚を同封して申し出ください。 住所: 〒395-0004 長野県飯田市上郷黒田1079 西村誠英